実習報告（関係機関実習）

発達障害のある児童が表現する楽しさを実感できる ICT 活用

池脇　洋輔（子ども支援探究コース　生徒指導・教育相談系）

【探究実習のテーマと設定の理由】

〇テーマ

様々な困難さのある子ども達のモチベーションを高めるための支援のあり方と，そのための職員同士の連携の重要性についての探究

〇テーマ設定の理由

発達障害のある児童の中には，不得意な部分が顕著なために，モチベーション低下につながり，ひいては自己肯定感も大きく低下している子も少なくない。児童の実態を把握し，その子に合った支援方法を考える必要があるが，モチベーションを高めるための支援方法を見つけることは容易なことではない。

大学院で取り組む研究テーマとして，発達障害のある児童のモチベーションを高めるための支援のあり方について探っていきたいと考えている。モチベーションを高めることで，自己肯定感も上がり，様々なことに意欲的に活動できる児童を育てたいと考えている。そのためには，苦手さを抱える子の持てる力のみに頼るのではなく，道具や方法を子どもに合わせて工夫しながら，学習の成果を高めていくことが必要である。その一つの方法として ICT 利活用が効果的であると考える。学校現場では，一人一台端末が進み，授業中でも当たり前のように ICT を利用できる環境が整ってきた。しかし，児童の実態に合わせて ICT が効果的に活用されていないのが現状であり，ICT を活用する職員の意識改革や技能向上も必要である。チーム学校として，職員同士の連携が重要となってくる。

今回の探究実習では，発達障害の有無に関わらず，様々な困難さのある子ども達を日々支援されている児童相談所，佐賀市教育支援センター ，スチューデント・サポート・フェイス（Ｓ．Ｓ．Ｆ．）の関係機関での子ども達との接し方や職員同士の連携を中心に学んでいきたいと考えている。様々な困難さのある子ども達のモチベーションを高めるための支援のあり方について体験を通して学び，そのための職員同士の連携の重要性について探究したいと考え，このテーマを設定した。

【探究実習の研究目標】

（１）様々な困難さのある子ども達のモチベーションを高めるための支援のあり方について体験を通して学ぶ。

（２）職員同士での共通理解の図り方を知り，連携の重要性について学ぶことで，チーム学校としての職員同士の連携のあり方について探究する。

【探究実習の概要】

実習機関名	実習期間	実習内容
佐賀県中央児童相談所	2022 年 8 月 22 日～8 月 26 日（5 日間）	相談課・判定課による講義，一時保護所での学習支援・体育支援・見守り等の子ども支援

佐賀市教育支援センター（以下「くすの実」）	2022 年 9 月 5 日～9 月 16 日（10 日間）	学習支援（数学・英会話・理科実験・ＮＩＥ等）・体育支援・調理実習・社会体験活動（北山）
スチューデント・サポート・フェイス（以下 S.S.F.）	2022 年 9 月 29 日,30 日 10 月 7 日,14 日,21 日,29 日 時間は各々（6 日間）	講座の受講，学習会・ワークショップ・フリーマーケ等の補助・利用者への支援・アウトリーチへの同行

【探究実習の成果と課題】

〇成果

児童相談所では CSP（コモンセンスペアレンティング～ほめて育てる効果的なしつけ）が行われており，この専門的スキルは子ども達のモチベーションを高める方法として効果的であると感じた。例えば，目標「指示を受ける」ことに対して，具体的に手順を教え，行動できた時にはポイントとして記録に残すようにしていた。児童相談所では子ども一人に対して担当が三人いる。児童福祉司は家庭や関係機関との調整，児童心理司は心理学の知識を以って心理検査や観察による子どもの専門的な実態把握，児童指導員は子どもの日常生活での様子の把握など，三者がそれぞれの役割を担いながら組織的に連携して子どもの支援を行っていることを知り,職員連携の重要性について学ぶことができた。

「くすの実」では，様々な活動が計画されており，まずは興味のある活動から少しずつ参加することができるようになっている。無理はさせずに少しずつ参加を促しながら，成功体験を増やすことで子どものモチベーションを上げることにつながっているのだと感じた。視覚支援の重要性についても学ぶことができた。なかなかイメージする力が弱い子どもに対して視覚支援を行うことで，興味を持って活動に参加することができ,子ども達のモチベーションを高めるために効果的だと改めて感じた。「くすの実」では，サポート相談員や SC，SSW と連携しながら子どもの支援を行っている。様々な問題が起こった時に，SC や SSW との連携を図ることで，より専門的なアプローチをすることができていた。チームとして取り組むことの重要性について多くのことを学ぶことができた。

S.S.F.の利用者の中には，引きこもりの期間が長く，アウトリーチを要するケースが多い。そのような人たちを支援していく方法として,価値観のチャンネルを合わせることが重要だと感じた。まずは，当事者の気持ちに寄り添いながら，興味のあることや好きなことを否定することなく，共感することが大切である。実際にアウトリーチにも同行し，価値観のチャンネルを合わせることの大切さを実感した。子どものモチベーションを高める方法としても，子どもと価値観のチャンネルを合わせ，信頼関係を築くことが重要だと感じた。S.S.F.では，29 種もの専門職が在籍しており，チーム対応を実現させるために，簡易的アセスメント指標「Five Different Positions」を基に支援を行っている。「対人」「メンタル」「ストレス」「思考」「環境」の項目をレベル 5 段階で表すことで，事前準備でしっかりと実態把握をすることができ,どのようにアプローチしていけばよいのか考えることができると思った。

〇課題

子ども達のモチベーションを高めるためには,まずは信頼関係を築くことが大切だと改めて感じた。次年度,教育現場に戻ったときに初めて出会う子ども達と信頼関係を築くために,「価値観のチャンネルを合わせる」ことを意識して接していきたいと思った。また，効果的なＩＣＴ活用についても実践できるように，子どもの実態に合わせて目標を設定し，スモールステップで支援していくことが大切である。そのためにも，事前に子ども達の実態把握を丁寧に行うことが必要不可欠である。実態把握を行うために，職員同士の連携が重要であり，密に連絡を取り合いながら，チームとして子どもの対応にあたっていくことが教育現場では求められる。